

運動実践家の立場からみた震災後における運動実施の意義

ー健康運動指導士による討論会の会話分析を事例としてー

佗美俊輔

●要約

人間は「身体」を持っている。こうした事実性があるにもかかわらず、2011年3月11日に発生した東日本大震災発生直後の避難所、さらにはその後の被災地における生活の中で、「運動を実施すること」の意義について運動実践家の視点から議論されることはほとんどなかった。

そこで本稿では、「NPO 法人日本健康運動指導士会」の東北・北海道ブロックによる「平成23年度震災マニュアル作成提言検討会」の会話分析を行う。そこから被災直後の避難所において「運動を実施すること」の意義について検討する。その結果、被災直後に最低限の衣食住を確保すること、健康管理と同じ地平にあるものの1つとして「運動を実施すること」の重要性を提示する。

●キーワード

運動

健康運動指導士

東日本大震災

避難所